令和８年度　第２回　入野中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和８年７月 14 日（火）　９時 30 分から 11 時 15 分まで
２　開 催 場 所　　入野中学校　大会議室
３　出 席 委 員　　大塚　哲雄、田口　章、田澤　健司、御室　福二、齋藤　良夫、
　　幅　あけみ、内藤　明子、村上　さくら、神谷　優
４　欠 席 委 員　　なし
５　オブザーバー　　松下　正行（浜松市議会議員）、岩田 邦泰（浜松市議会議員）
　　竹中　良輔（入野協働センター主任）
６　学　　校　　池田　隆宏（校長）、梅田　研（教頭）、
　　山田　亘（主幹・ＣＳ担当）、久保　理絵香（ＣＳディレクター）
７　傍　聴　者　　なし
８　会議録作成者　　ＣＳディレクター　久保　理絵香
９　議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、大塚委員から神谷委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10　協 議 事 項

（１） 学校運営についての経過報告
（２） 学校生活アンケートより

11　会 議 記 録

司会の山田主幹から、委員総数９人のうち９人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１） 学校運営についての経過報告

議長の指示により、池田校長から、別紙資料に基づき１学期の学校運営について報告があり、委員からは、以下の発言があった。

- 学校のブログを見ると、中学生がどんな活動をしているか知ることができる。ワクワクする経験をたくさんさせてもらった１学期だったと思う。いろいろな経験をさせてもらうことが価値観の形成、人間形成につながるので、２学期以降もいろいろな経験をさせてほしい。ＰＴＡでも講演会を計画している。（神谷委員）
- 入野中の生徒は、まじめに熱心に話を聞いてくれる。年を重ねた人が話すことは、長い時間印象に残っていることである。しかし、それが正しいことかどうかは中学生本人が調べて確認する必要がある。情報があふれる時代だから、自分で調べて確かめることが大事である。（田澤委員）
- 大麻の低年齢化やオーバードーズの増加などはとても危険である。認められているものも安全ではないことやＳＮＳで簡単につながってしまうことを考えると、薬学講座はとても大切である。（田澤委員）
- 先生と生徒の距離が昔と違うと感じた。若い先生が多いので、子供と先生が一緒に進んでいる印象がとてもよかった。（御室委員）
- 読み語りボランティアに参加した。生徒が読み手を囲うように座っていて、その近さに驚いたが、そのおかげで自分も一緒に楽しんで読み語りができた。（村上委員）
- 入野中はどんどん新しいことに取り組んでいてすごいと感じる。地域の人と生徒が話す活動もとても良いと思う。試行しているポロシャツの導入は夏限定か。また、制服や体操服については学校で決めることできるのか。（内藤委員）

→学校で決めることができる。ポロシャツは通年着用可で、制服としても体操服としても着用できるようにと考えている。現状の制服に加え、選択肢の１つとなればよいと思う。（池田校長）

→選択肢を増やすことは良いと思う。これでないといけないと限定してしまうと、どうしても合わない生徒が出るため、選択できるとよい。（内藤委員）

- 体育大会用に作ったＴシャツを普段の学校生活で着用している学校もある。生徒と先生が話し合って、変えていくことは良いことだと思う。（幅委員）
- 入野中は良くなっているなと実感する。子供や家庭と一緒に考えていくことは良いことだと思う。合同懇談会もとても良い活動である。部活動がなくなることもあり、今後は地域との関わりがさらに大事になると思う。（田口委員）
- 資源物回収で中学生と話す機会があったが、中学生は昔の話をするとびっくりする。「今」が当たり前の中学生にとって、昔のことを知ることは大事だと思った。昔は押し付けが多かったが、今は先生と生徒の関係も変わってきている。多様な時代で難しいことも多いが、地域家庭学校が協力して学校を良くしていけるとよい。（松下委員）
- さなる幼稚園、大平台小学校、大平台高校が参加して、夏フェスティバルを行った。次年度は入野中にも参加してもらいたいと考えている。また、今年の資源物回収では中学生の参加人数が多かった。参加してもらえる工夫もしているが、それだけ集まってくれるということがとても良いことである。（斎藤委員）。
- 入野中の８０周年記念行事については、学校ではなく、コミュ協やＰＴＡ、同窓会などが主体でやっていけるとよいのではないか。
  違法薬物やオーバードーズの問題はとても心配である。薬物に関しては、違法だということをしっかり教えなくてはいけない。
  制服については、場にふさわしいものを着るという観点から考える必要もあると思う。また、保護者が意見を言える場面があるべきである。お金を出す保護者と、実際に使う生徒の意見が大事ではないか。（大塚委員）
- 協働センターでも土日の中学生の居場所づくりを行っていきたい。今年はしめなわ講座を計画している。また、今年もスマホ講座のボランティアをお願いしたい。中学生がスマホを実際にいじりながら教えてくれるので、おじいちゃんおばあちゃん世代の方々は孫に聞いている感覚で壁がなく教わりやすい。中学生は地域貢献をしている実感がもてる。この入野地区の取り組みは高く評価されている。（竹中主任）

（２） 学校生活アンケートより

議長の指示により、山田主幹から、別紙資料に基づき生活アンケートの結果について報告があり、委員からは、以下の発言があった。

- ウェルビーイングの効果が出ているのではないか。先生の雰囲気が良いから生徒の状態が良いのだと思う。（田口委員）
- アンケート結果を見ると、学校の取り組みの方向は良いのだと思う。（神谷委員）
- アンケートを頻繁に行い、日々検証していることはとても良いと思う。集計結果としては、平均をとっているため全体の傾向しかわからない。極端な回答など、個々の回答、中身を検討することが大事だと思う。（田澤委員）
- どういう学校なら行きたいか、自分はどういう学校にしたいか、など生徒の考えを聞くアンケートを取るのはどうか。（村上委員）
- アンケートは実態をつかむためにどうしても数値化するが、抽象的で中身がわからないため、具体的なものを抽出することが必要だと思う。子供たちが記述する項目、具体的な中身をかけるアンケートができないか。（松下議員）

・ このアンケートで傾向がわかる。項目を変えると全体の傾向がわからなくなる。また、アンケートの目的は、生徒に「とことん関わる」ことができているかということなので、その視点でフィードバックすべきだと思う。（大塚会長）

その他報告事項等

・ 梅田教頭より、部活動の地域展開について報告があった。
夏以降、土日の部活動はできなくなる。入野中では、剣道部は指導員がいるので活動し、その他「はまクル」認定のクラブを立ち上げている競技は、現在５つだけである。
・ 司会から、次回会議は、令和８年 11 月 26 日（木）９：３０～大会議室で開催する旨の報告があった。